

彫刻のあるシンボルロード

大手前通りには「彫刻のあるまちづくり事業」として姫路市が1986年度から設置を進めてきた数多くの彫刻があります。いずれも日本を代表する作品で、姫路のシンボルロードに潤いと快適性をもたらしています。



22ブーツの娘

生き生きとした女性像を多く制作した佐藤忠良氏(1912-2011)の作品。近隣では神戸市庁舎、六甲アイランドリバーセーラム、御堂筋などにも同氏の作品があります。

16お月さまのかお

「そりあるかたち」シリーズで知られる滝川善一氏(1931-)の作品。建築家安藤忠雄氏と共に東京スカイツリーのデザイン監修を務められました。

2帽子をかぶったら歩いてみよう

黒川真喜氏(1948-)の作品。草履を手にした屋外彫刻が多いそうです。旭川平和通商公園の「サキソフォン吹きと踊り」もとても印象的でした。

1希望

姫路町出身で具象彫刻界の大家のひとり淀井敏夫氏(1911-2006)の作品。姫路駅前周辺整備により2012年に姫路港へ移設されました。

大手前通り周辺の町名の由来

昭和59年の区區整理により変えてしまった町名もあるのですが、現在も山崎ある町名が残っています。その由来をたどってみました。(参考文献:「姫路の町名」兵庫県地名研究会編著、神戸新聞総合出版センター発行、2005.10)

本町	姫路城の大手に当たりここから最初の町屋敷がつけられたことから、本町(物事のはじめで最も大切な部分の意)と呼ばれた
総町	江戸時代初期には小物屋町と呼ばれていたが、総問屋が増えてきたため総町と呼ばれるようになった
二階町 西二階町	平屋が多かった時代に二階建ての商家が並び、物珍しさを二階町と呼ばれた
兵衛町	大名高家のための反物の取り扱いや金銀融通をおこなう兵衛所があったことが由来
細屋町	漆塗り工場の職人がいた漆器町に染物屋(細屋)ができて、元禄の頃から細屋町と呼ばれていた
亀井町	百姓一揆や水害など苦難の時代であった貞延年間、長壽寺の生き物である亀のいる井戸が見つかり「亀井町」に改名された。
白銀町	白銀台という吹簫所(鐘の精錬所)があったことが由来という説と、銀子・白銀と呼ばれた贈答用の小判を扱っていた銀子屋があったことが由来という説がある

東西の通り、南北の路については、姫路商業タウンマネジメント計画推進委員会や白銀地区地域まちづくり委員会などの活動により、「くまたか門前」「演劇の小径」「寸前通り」などの愛称が提案されています。こういったまちを愛する人たちの地道な活動がまちを魅力的にする原動力になっているのです。



大手前通りの魅カスポット

姫路城

国宝であり、1993年に法隆寺と共に日本で初めて世界文化遺産に登録されました。現在、保存修理工事中ですが、見学施設「天空の白鷺」から工事の様子を見ることができるといいます。

納屋工房

大手前第一ビルの4階、窓から姫路城を眺めることができる「一等地」に、コミュニティスペース納屋工房があります。主宰者でデザイナーの長谷川香里さんに話を伺いました。2008年4月に開設したカフェ的な空間で、講座・会議・ワークショップ・一日カフェ・音楽イベント・ギャラリーなど自由な使い方を推奨されています。また地元のフリーペーパーなどを置いている情報スペースと地元産品の販売スペースも併設し、それらを通じて人のつながりと広がりを実現しています。4年間の運営から「場」の重要性を実感したとのこと。また「場」の運営がきっかけで姫路駅周辺の各種まちづくり活動にも参加するようになり、そこでもこれまでの実績を活かせばと語る。今後は他地域との交流も進めたいと考えておられ、様々な実験的要素も加えながら進めていかれるとのことでした。

中瀬跡

姫路城の中瀬は大正元年に当時の姫路市長によって埋め立てられ商業地となりました。昭和7年には自動車の普及への対応のために城周の中瀬をすべて埋め立て新国道が建設されたのです。

三木美術館

三木茂久氏(美術工業(株)会長兼社長)のコレクションをベースに2008年に開館。日本の近代陶磁器、絵画を中心に約1000点の作品を所蔵しています。開館時間:10~18時(入館は17時30分まで)、火曜休館

ヤマトヤシキ

ヤマトヤシキは姫路で唯一の匠匠村野藤吉さん設計の建築です。建設当時を知る米田徳夫会長にお話を伺いました。建築に造詣の深かった先代会長が村野建築を見てたいへん気に入り設計を依頼されたそうです。現在の建物は昭和25年の南東部分の竣工から3箇年の増築工事を経て昭和54年に完成。そのすべてを村野藤吉さんの設計・指導されています。外観は当初のタイル貼りに剥落防止用のアルミ外装材をかぶせていますが、塔屋壁のデザイン(写真上)と階段の手すり(写真中)は建設時のままだそうです。外装材に取り付けられている「かご」(写真下)は、村野さんの遺作である新築輪プリンスホテルでも使われているデザインであり、ディテールには米田会長の希望でサギソウ(姫路市の市花)がモチーフにされています。

大手前通りストリートギャラリー街・発信

2010年4月に大手前通りまちづくり協議会が設置した情報発信拠点。運営に携わっている若田愛子さんに話を伺いました。この街を伝えることと通方の街を積極の中心地であるこの場所から発信することが目的。コンセプトは「街は人なり、人は街なり」。版画と写真の展示と地域菓子「街・発信」「福島の食みんまで食べるとおいしいなあ」の発行が主な活動です。それらを通じた人との交流を深めることを大切にしているとのこと。メインストリートである大手前通りで行き交う人を「ようこそ!」と出迎える場所でありたいというお考えでした。そして、ハード整備中心のまちづくりから、既存のものや人を活かしたまちづくりへ転換していくきっかけになるよう、これからも活動を継続していきたいと熱く語ってくださいました。

外瀬跡

山陽西貨炭坑の横断歩道は姫路城の外瀬があった場所です。瀬は大正2年頃に埋め立てられました。大正12年には外瀬跡に神戸姫路電気鉄道(現山陽電鉄)の線路が敷かれ、今や外瀬跡の痕跡は何も残っていません。

大手前通りお手軽グルメレポート

- 御座城** 全地区の田舎飯、姫路の(株)御座城が昭和25年から販売。平成21年には「あずきミュージアム」がオープン。
- えきそば** 日本の駅そばランキングで第2位となった中華めんに和風だしという日本一有名な駅そば。フェスタ南館にも出店。
- 明石焼風たこ焼** ソースをたっぷりつけ、それをだし汁につけて食べるのが特徴。フェスタ南館の Tacco Pire で販売しています。
- チーかまドック** ヤマシヨク提供。一見アメリカンドックですが中にはチーズかまぼこ!コクが有って絶妙な味なのです。
- ハトムシ** タマネギを刻んですり身に練りこみパン粉を付けて揚げた逸品。ハトヤ本社工場ではかまぼこ手作り体験教室をおこなっています。